

## 会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（4月定例会）会議録
開催日時	平成22年4月16日（金曜日）14時00分から16時00分まで
開催場所	保谷庁舎3階第2会議室
出席者	委員：小川議長、濱崎副議長、稲葉委員、岡村委員、倉島委員、齋藤委員、白木委員、須永委員、本田委員、本領委員、松嶋委員、宮崎委員、山田委員（五十音順） 事務局：磯崎課長、神田係長、諸岡主事
議題	(1) 今期の活動計画について (2) 報告、その他
配布資料	1 今後の検討の進め方 ・ 第52回全国社会教育研究大会福島大会開催要領 ・ 西東京市社会教育委員名簿（平成22年4月1日現在）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	

## 事務局よりの報告

### 1. 社会教育課の組織改正と人事異動について

・組織改正により、文化財担当がなくなり、社会教育係と地域連携係の2係になった。4月1日の人事異動により、社会教育課の職員体制は、磯崎社会教育課長、社会教育係は神田係長、係員諸岡主事、地域連携係は下田係長、係員渡邊主事となった。

### 2. 校長会からの推薦委員の変更について

・高谷委員が退職されたため、後任に上向台小学校長の稲葉委員が委嘱された。任期は残任期間となる。

## 前回会議録の確認

平成22年3月定例会議の会議録を一箇所（2ページ）訂正後、承認する。

### (1) 今期の活動計画について

#### 主な意見等

##### ○議長：

前回会議の出席が少なかったこともあり、もう一度今期の活動計画について考えていきたい。前回会議の内容は資料1のとおり。テーマとして「全員参加の地域づくりをめざして」が出されたがいかがでしょうか。

※事務局より資料1に沿ってこれまでの議論の概要と検討スケジュール、今回の検討事項について説明

##### ○議長：

これまでに出了された現状・問題点の他に何かあるか。

#### 主な意見

##### ○委員：

社会教育でやっていることが普及されていないと思う。地域によって行われている事が違うので、ここでは防犯活動が行われているなどそれぞれの地域で行われていることをみんなに広報していくことが大切だろう。市全体に地域の活動を広めていくことで、学校区のことだけでなく広く地域に目を向けていく事ができると思う。

##### ○委員：

まちづくりは人づくりだと思う。私の地域では安全マップ地図を地域の人が協力して作成したことがあるが、家庭、学校、地域での連携をとっていくためにはやはり人づくりが大切だと思う。

##### ○委員：

子どもや孫がいないと地域の情報が入りづらい。そういう人たちにも参加してもらってまちづくりをしていくにはどうしたらよいのだろうか。

##### ○委員：

地域をどう考えるか。何をもちて地域と考えるのか。どこを主体として地域を作ってい

けばよいのだろうか。

○委員：

一つの案として小学校区域がある。ネットワーク作りをするコーディネーターが各区域にいればよいが。今回は何をサブテーマにするかだが、「地域のネットワークづくり」などはどうだろうか。

○委員：

地域の分け方は難しい。小学校区が一般的に分けやすいだろう。

○委員：

今年度から小中連携ということで小学校2校と中学校1校又は小学校3校と中学校1校と組み合わせを決め、小中連携の日（6月16日）に授業参観を行うなどの連携を始めた。小学校区の19地域に分けるのが細かければ中学校区で9地域に分ける事も考えられるだろう。

○委員：

小中連携の内容をもっと詳しく聞きたい。

○委員：

各校で先生たちの交流、情報共有などに取り組みながら連携の中味を深めていこうということでスタートしている。

○委員：

「地域づくり」とはどういうことをいうのだろうか。理想とする地域があって、それに近づけていくことを地域づくりというのか。地域に興味関心を持ってかかわることで地域づくりとしては十分なのか。自分の活動が地域づくりにつながらなくても文化・教養など同じ目的で集まって地域で活動していること自体がすばらしいことではないかとも思う。地域づくりが人づくりというイメージなら、地域づくりの役割をとってくれる人を育てる事なのか。皆さんは「地域づくり」にどんなイメージをもっているのか意見を聞きたい。

○委員：

福祉分野でのまちづくりと違い、社会教育ならではの地域づくりの展開をどうやっていけばよいのか。

○委員：

たとえば、学校施設開放運営協議会にアンケートをとるなど、地域が何を求めているのかアンケートをとってはどうか。

○委員：

地域づくりのイメージをある程度共通認識して進めていくほうがいい。

○委員：

地域づくりのイメージとしては、地域への関心を高めること、地域で何かあれば積極的

に参加しようといった意識を高めることでないかと思う。地域の良さとかを住民の一人一人が理解しているということも地域への関心を高めることにつながるだろう。

○委員：

アンケートは市など行政に対しての要望を聞くのではなく、「あなたは社会教育をどう思っていますか」、「地域づくりをどう考えますか」といったアイディアを出してもらう内容で、一緒に考えていけるアンケートにできたら良いと思う。

○事務局：

アンケートについてはいろいろな方法がある。ただ漠然と聞くのではなく、まず委員の皆さんが地域とは地域づくりとはどういうものか、今回の提言で中心となるイメージを考えて、それが実際市民の方たちの意識とずれてないのかを確かめるようなアンケートを実施すれば、その結果からこちらの考えを修正する必要があるかが分かってくる。市民にとって必要な施策をたてるためにはアンケート調査等は大切だと思う。方法についても、質問紙やヒアリングなどがあるが、その作業にかかる時間的なことも考えていく必要があるだろう。調査の際には、地域づくりのイメージをある程度共通認識して進めていくほうがいだろう。その議論を進めていく中でアンケートをどのような位置づけでやっていくのか、地域に出て行ってヒアリング調査が必要なのかといった事も考えていければと思う。「地域」の定義も、学問的な立場から見るといろいろな考えがあると思う。社会教育分野についても「地域」という言葉は使うが、その定義について深めるような学習機会はあまりなかったように思う。社会教育の方からではなく別の領域からどう定義されているか知る事で、社会教育として考えるべき「地域」というものが見えてくるかもしれない。

○委員：

地域の捉え方は様々だろう。アンケートの実施は、市民に地域について考えてもらえる良い機会になると思う。地域について考える事は答えが出ないかもしれないが大事なことだと思う。また、どこまでを地域づくりと考えるかという事も確認しておく必要がある。市民それぞれが学習で身につけたものが、何らかの公共サービスを生み出すところまでいくと地域づくりになっていくのだろうと思う。

○委員：

地域のネットワークづくりはどこから始めたらいいいのか。私の地域では自治会組織の活性化をはかることで地域づくりに取り組んだ経過がある。自治会組織も半分ぐらいしか活発に活動をしていなかったのも、自治会ごとで地域づくりをやるのではなく、小学校が中心となって小学校区の自治会を活性化させながら地域づくりを進めていった。

○委員：

地域から何か始めていこうという意識はあると思う。自分が楽しむだけではなく、自分たちが身につけたものを地域に還元していきたいという思いはある。それが社会教育活動だと思うが、バラバラにやっていると大きな力になっていかない。みんな何かを思っているが、どう行動していいかわからない状況があると思う。

- 委員：  
地域づくりを進めるためには、地域に参加する意識を高めること、地域に関心をもってもらうことが大切だろう。
- 委員：  
「まちづくり」なのか「地域づくり」なのか。
- 委員：  
「町づくり」のほうが先に言われていた。町づくりは橋づくりなどハード面の町づくりだがそれだけでは町はできないので、ソフト面も含めてひらがなの「まちづくり」といわれるようになった。しかしそのイメージもなかなか浸透しなかったのか、中身はそんなに変わらないと思うが、「地域づくり」という言葉にシフトしていった。
- 委員：  
西東京の人口は増えているのか。
- 委員：  
マンションが増えており、30代・40代が増えていると思う。
- 委員：  
企業の跡地にマンションが建てられているため、税収も落ち込んでいる。
- 委員：  
そういった市の状況を考えると、地域のことや公共的なことも、できることは自分たちでやっていく、自分たちでできることはやらないとだめなんだという意識が出てくるのではないか。市の将来像を考える中で、西東京市としてどういう地域づくりをしていくのか。地域づくりに関わる市民の動機をどう作っていくのかといった点も考えていく必要があるだろう。
- 委員：  
自治体がやっていたことを地域の住民がやっていく方向にいくかもしれない。
- 委員：  
転入者が多いため地域への意識が薄いのではないか。地域づくりの核になるグループとか人材とかキーパーソンが欲しい。
- 委員：  
コーディネーターがいるのが理想だが、何か資格がいるのか？
- 事務局：  
共通の資格はないと思う。コーディネーターは役割の名称みたいなものなので、市の他の行政部門で配置される場合もその分野で必要な要件・条件を満たしている方になっていると思う。

○委員：

地域づくりを進めるにあたっては、コーディネーターの存在は必要だと思う。

○委員：

マンションが多くなり、自治会も少なくなっていく状況だと、地域の中でのコミュニケーションがとれなくなっていると思う。そのため地域にいる多くの人材も知られていかない。地域の中でのコミュニケーションがとれないと、コーディネーターがいても、地域づくりも難しいのではないかと。地域づくりの前にコミュニケーション作りが必要だと思う。

○委員：

地域にいる人材についてアンケートで調べてみたらどうだろうか。

○委員：

西東京市に越して来た当初は地域と何もかかわりがなかったが、地域の行事や活動に参加していくことで、地域の人と知り合い、触れ合うことができた。そこからまた、いろいろな情報を知り、活動が広がり、人とのつながりも広がっていった。必要なのは人と人をつなげるしかけだと思う。まず隣の人を知ることからはじめましょうということでも良いと思う。

○委員：

今はあえて地域の人と関わりたくない人も多い。自治会の夜回りやお祭りも次世代の継承者がいない。そのため、行事を中止せざるを得ない事もある。

○委員：

何かあれば地域のことを手伝おうという意識をもってもらうにはどうすればいいのか。地域の事業や活動をしてくれる人がいないと人と人とのつながりが生まれてこないだろう。それを担ってくれるコーディネーターを育てることも必要だろう。

○委員：

社会教育委員としてアンケートを実施することで、社会教育委員の存在を知らせていく事ができるのではないかと。アンケートの設問を考えていくことから、自分たちの問題意識を固めていくこともできる。過去の市民意識調査や資料などから地域のイメージを作っていくこともできるだろう。

○委員：

実態調査や聞き取り調査をしていくことで、課題となっていることの現状や原因がわかってくるだろう。

○委員：

地域づくりの内容もいろいろあると思うが、その中でどれに絞っていくかサブタイトルを決めていきたい。

○委員：  
地域の人や団体などお互いを知る事からはじめることが必要だと思う。

○委員：  
地域の事を知らせていくことが大切で、地域の活動内容を発信していく事も必要だろう。

○委員：  
地域づくりに向けてもう一押しするしかけや仕組みづくりを考えていく事も必要だろう。

○委員：  
「組織と人材の発掘と活用」でどうだろうか。

○全委員：  
異議なし。

## (2) その他

### 1. 平成22年度都市社連協総会の参加について

- ・日時 4月17日（土曜日）午後1時から
- ・場所 東久留米市立生涯学習センター
- ・参加予定 小川委員、須永委員

○事務局：  
欠席される委員は委任状の提出をお願いします。

### 2. 第52回全国社会教育研究大会福島大会の開催について

- ・日時 10月27日（水曜日）～29日（金曜日）午後1時から
- ・場所 福島県郡山市

○事務局：  
自己負担での参加となるが、手続きは事務局で行うので、詳細はまた後日送付され次第報告します。

○議長：  
以上で本日の社会教育委員の会議（4月定例会）は終了する。

※次回会議 平成22年5月21日（金曜日）午後2時から